

第1回奈良市の地域教育を考える委員会会議録

平成26年7月11日 会議

地域教育課

平成26年度 第1回 奈良市の地域教育を考える委員会 会議録	
開催日時	平成26年7月11日(金) 10時30分～12時00分
開催場所	奈良市庁舎 第16会議室
内 容	<p>○ 開 会</p> <p>1 委員の委嘱</p> <p>2 教育長あいさつ</p> <p>3 自己紹介</p> <p>4 会長・副会長の選出</p> <p>5 案件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奈良市地域教育推進事業について ・平成25年度アンケート調査について ・平成26年度コーディネーター研修等の実施予定について ・奈良市コーディネーター勉強会の取組について <p>6 その他</p> <p>○ 閉会</p>
出席者(委員)	岡田龍樹委員 梅林聰介委員 岡田和大委員 長浜博己委員 岡田修委員 松本知子委員 上城戸栄子委員 上田和男委員 魚谷和良委員 佐野万里子委員
(担当部局)	中室教育長 梅田学校教育部長 西崎教育総務部長 寺田子ども未来部長 石原教育政策課長 城学校教育課長 廣岡教育支援課長 岡崎こども園推進課長
(事務局)	松田地域教育課長(事務局長) 他 地域教育課から7名
開催形態	公開
担 当 課	地域教育課

議 事 お よ び 協 議 内 容

○ 開会

1 委員の委嘱

2 教育長あいさつ

委員の皆様は大変忙しいお仕事をお持ちですが、どうぞ一年間よろしく願いいたします。奈良市教育委員会では奈良市の教育ビジョンを定めまして地域全体で子どもを守り育てる体制づくりの推進を大きな柱として進めてきました。平成23年度より奈良市地域教育推進事業として、市長のマニフェストにもありましたが、地域で決める学校予算事業・放課後子ども教室を一体化させて、一つの事業として推進をして参りました。その推進の母体となるのがこの委員会になるかと思っております。平成21～24年あたりは評議員制度や放課後子ども教室がありと、地域で決める学校予算事業や学校支援地域本部事業など、地域の中では「いったい私たちに何をしろというのか。」というご批判もいただきましたが、思い返すと熱き議論だったと思います。地域で決める学校予算事業も5年目を迎え、放課後子ども教室も全小学校で実施から3年目を迎え、これを一本化させていただき事業的予算的にもまとまりをもってきました。平成25年度の学校支援地域本部事業の実施率で全国でも奈良県は特に進んでいる県として文部科学省の広報にも表出されています。しかし、奈良県全体が進んでいるのではなく、奈良市がけん引しています。また近々、中央審議会の生涯学習分科会のワーキンググループの事例紹介の中で、文科省の生涯学習局から地域の人たちが学校を支援する仕組み作りの紹介例として奈良市が冊子の中に掲載され、全国配付されるだろうと思っております。冊子の中には平成20年度には学校支援地域本部を奈良市は全市展開し、平成22年度には奈良市独自の地域で決める学校予算事業を始めてきました。そしてすべての中学校区に学校支援地域本部を立ち上げて、地域全体で子どもを育てる体制づくりを進めてきました。地域の教育力の再生と地域のコミュニティの活性化を進めている例として全国に発信をされていくでしょう。私たちの事業は今後も注目をされていくだろうと思いますし、またそういう事業を進めるにあたり、しっかり責任感ももって前に歩いていきたいと思っております。地域でのコーディネーターも300人を超える方々に協力いただけているので、ここで安心してとどまることなく前に進めていきたいと思っております。その一番母体になる議論をしていただくのがこの委員会ですので、様々なご意見を賜りまして、奈良市の地域教育を考える推進力になっていただければ幸いですようお願い申し上げます。

3 委員自己紹介 および 担当部局・事務局紹介

4 会長・副会長の選出 ※会長には岡田委員が、副会長には佐野委員が選出される。

○会長あいさつ

ただいま会長に推挙いただいた岡田です。奈良市のこの事業がますます良い方向に新しい動きができますように取り組んでいきたいと思っておりますので、皆さまもご協力をよろしくお願い

いたします。

○副会長あいさつ

昨年に引き続き副会長ということでご指名を受けました。新しく広がるように、深まるように努めさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

5 議事

- ・ 奈良市地域教育推進事業について

岡田会長 本委員会は、運営要領により公開とさせていただきます。また、会議録を作成するため、録音と写真撮影を行いますことをご了承ください。本日の会議録の署名は、梅林委員と岡田和大委員にお願いします。本日の会議の傍聴希望はございましたか。

事務局 傍聴希望はございませんでした。

岡田会長 では、議事に入らせていただきます。案件の「奈良市地域教育推進事業について」「平成 25 年度アンケート調査の報告について」「平成 26 年度コーディネーター研修等の実施予定について」「奈良市コーディネーター勉強会の取組について」説明を事務局よりお願いします。

事務局 (配付資料とパワーポイントを使って 4 案件を事務局説明。)

以上 4 案件についてご報告をさせていただきました。報告を踏まえていただき、本日特にご検討いただきたいことは、今後の事業展開する上で課題として捉えています、教職員の方々と地域の方々により一層理解をはかっていくにはどうしていくのが良いかとの点と、事業が子どもの学びに返っていくのか、または教職員の方々の負担になっていないか、この点に学校との連携の再確認をどうしていくのが良いのかについて。3 つ目は各協議会の総会等で、評価会議の評価方法についてわかりにくいとの声を聞かせていただいています。以上 3 つの点について委員の皆さまのご意見を賜りたいと考えております。よろしくお願いいたします。

岡田会長 ありがとうございます。一括して説明をしていただきました。ではご質問等ございませんか。

多くの方がコーディネーターやボランティアとして参加していただいているが、まだまだ地域の中にこの事業が浸透していないのではないかの点と、学校の先生方にもご協力いただいているが理解していただいているのだろうかの点、活動の場も増え、実際に子どもたちが段々この活動に関心を持ってきていると活動している方は実感しているが本当に子どもの学びになって成長につながっているのか、確たる確信が得られない。ひとつが学校とうまく連携して、学校から子どものこういう部分が育ってほしいとうまく協力して出来ているかどうかと言うところにもつながっているところでしょう。また、その裏腹ですが、教職員が入り込めば入り込むほど負担増につながっていくところをお互いの悩みでしょう。最後に評価ですが、地域で決める学校予算事業は 2 月にプレゼンテーションしていただき、評価して、ある程度予算をケース配分しています。ケース配分される部分は非常に少ないので、評価が決め手になっているわけではないですが、一応評価することになっています。段々差がなくなってきた、それぞれの学校・地域の取組が良くなっていくと、この評価は評価される側の協議会の方々からは、

あの評価はどういう視点で評価されているのだろうかとの声が出てきております。これらの点でこれまで関わっていただいたご意見をお願いします。

長浜委員 残念な結果ですが、教師が負担増と捉え、理解が進まない。これは私が学校に返さないといけないと思います。つまり、学校の先生がいろんなものが入ってきたら、うまく皆でやろうと思うまで時間がかかるし、理解が進みにくいことは現実としてあります。ありますがだからこそ何をやるのかを持っていないと単なる負担増という言葉で片付けてしまいます。何もしない方ほどそう言う。仕掛けが必要でしょう。管理職もコーディネーターも会長さんもやはり仕掛けを多くしないとだめではないでしょうか。自校区では、夏休みに全小学校も中学校の職員と地域の方と小中一貫の話、地域の事業の話、どんな子どもに育てようかなどのお話もします。そんな場面の仕掛けをいくつ持っているか。特に校長・管理職はそれを持っていないと一般職員の疑問に答えられないと思います。校長・教頭はまだわかっていますが、教務主任や研究主任などの次のリーダーたちをどう巻き込んでいくのかを持っていないと広がらないと私は今の学校の現実を見て思います。

岡田会長 この事業は平成 20 年から始まって、常々、学校の先生が、と話がありましたがその質は少し変わってきていると思います。いまだに学校の先生がこの事業を知らないという方は少なく、深まってきています。ただ、地域の方々はもっと先生と議論して取り組みたいと思っているところがうまくできていないのでしょうか。先ほどおっしゃった仕掛けを何にするのか、目に見える形で共有していく、議論していくことで取り組めたら良いのだと思います。今のところでご意見ありませんか。

岡田修委員 管理職は地域の方とは会って話す機会は多いですが、そのほかの先生とはなかなかつながりにくいのが現状です。いろんな事業を決めてこられても、管理職からそれぞれの先生に伝わる形で、先生方にとっては突然に進められた取組をしなくてはならないといった感じになっているのではと思います。子どもたちにとってはそのこと自体は意味があることはわかるが、学んでいく流れの中ではとって付けたような感じになっている部分はあるかもしれません。

岡田会長 学校はカリキュラムで動いているところがありますから、事業は前年度に構想は立てて、実際に協議会が立ちあがり動き出すのは5月ぐらいから、前年度の決めた計画が動き出し、その間に学校の先生も新しい学年になって動き出したところにそういう事業がかぶってきます。そのあたりにうまく協力をしてやっていくのは難しい、協議会も2・3・4月はメンバー交代の時期にあたる、学校も年度末で異動もある中で話し合う機会もなかなか難しいのでは、協議会ではいかがですか。

上城戸委員 富雄中地域は1中学校と2小学校でその一つの小学校がコミュニティスクールを入れています。でも内容はほとんど一緒、基本子どもたちのためなので、放課後子ども教室のメンバーもコミスクのメンバーに入っています。学校の先生方とは新年度一番にそれぞれの学年主任の先生方とお話し、どの時期の、どの学年に、どんな事業で入りましようかと相談し、一年間の計画を決めてしまいます。ひとつの事業ごと、保護者、コーディネーターにもその都度ボランティアを募って、年数が経つに従ってボランティアさんの数が増えてきています。一人の先生がおひとりで決められたカリキュラムを決められ

た時間の中でこなすのは大変なので、こちらからどんな事をお手伝いしたらよいかをお伺いして、先生から教えていただき、先生と相談してやっています。今のところうまくいっています。先日は授業の中にホタルの学習を取り込んだ中で後日、現地で観察会をすることを計画しました。それを地域に広報すると150名の参加がありました。土曜日の夜でしたが、多くの若い先生方も参加していただき、行く道中で普段話せない事を先生と地域の方がいろんな話をしながら行かれたのが良かったと思います。中学校の地域教育協議会がかゆいところに手が届く活動をしようと、どうぞかゆいところを教えてくださいと伝えています。それぞれの学校に浸透していき、先生からもお話いただけるようになってきています。

岡田会長 コミュニティスクールがうまくつなぎになっているということですね。地域教育協議会で企画したものが学校運営協議会（コムスク）でも一度議論されている。それは学校の教員の中にもきちんと流れていく。

上城戸委員 年度初めに必ず中学校も小学校も教職員に対しても協議会として話をさせていただきます。

岡田会長 上城戸委員はコミュニティスクールも兼ねてられますか。

上城戸委員 兼ねています。

岡田会長 コミュニティスクールも似たような活動ですが、もう少し法的に位置づけられている学校運営協議会（コムスク）をうまく機能させるのも一つの方法なのかと思います。そんな事を通じて先生方と協議会、コーディネーターさんたちが顔合わせて話せるようになることと事業が進みやすくなるということでしょう。

魚谷委員 地域への理解というところですが、「交流の集い」においては商店街関係に情報発信したり、チラシを撒いたりなどしましたが、当事者でないとやはり伝わっていかない。PTAとか自治会などでない方には伝えにくい、伝わらない、関心がない方にはいつまでも関心を持っていただけない。FMラジオの取組は聴かせていただき、とても良い取組だと思いました。耳からだけでなく、目で見える紙であったり、画像であったりと、もっと我々の活動を情報発信することをこれからは力を注いでいかなければならないのかと思いました。そういうことが地域のコーディネーター予備群をつくっていくことになるのではないのでしょうか。今年以降はそこに力入れていただいてはどうかと思います。

岡田会長 日ごろ活動に関わっていない方にもこういう形で活動を知っていただく機会になります。

松本委員 幼稚園は時間にゆとりがあり、担任が一日の流れの中を決めていくことができます。だから管理職が何を地域と関わるのか、関わることで子どもの視野も広がりますし、子どもの経験も豊かになりますし、良いと思いますが、教育の中でやるのが地域の方の時間に合わせたりとか、地域の方がお手伝いをとどんどん入っていただくことで学校の中を地域の方が先導されている事がないかと心配しているところもあります。当園では、トマトの栽培に関わっていただいている。土壌作りなどはコーディネーターさんにボランティアの方を募っていただき、子どもとの関わりや、教員の負担軽減になっている事もあって大変助かっていますが、いろいろ見ていると関わりが多くなりすぎて、子どもたちが遊ぶ時間に食い込んでしまったりと心配することもあると、そうすると教師の

負担という形になっていくのかと思います。

岡田会長 お互いが了解してやっているとその意味が理解されて負担感はないのでしょうか。でも、どちらかに理解がないとどこかでできしみが出てくるのかもしれませんが。自治会ではいかがでしょうか。

梅林委員 仕掛けが大事なのはわかります。行動を起こすことで関心のない保護者・教職員も必要に応じて関わらざるを得ないということで、変わってはきているが、自治会長の定例会で行事の案内をするが、自治会長さんは学校のことは学校でということではなかなか地域には浸透していきません。社会福祉協議会など関わっている方または、保護者は参加してくれるが、それ以外の方は参加しません。地域住民と学校と子どもと一緒に動ける事を仕掛けていく必要があるかと思っています。最近変わってきたのは、我が地域は市役所から農園を借りて子どもコミュニティ組織が担当していますが、最初は高齢者の方々が運営していただいていたが育友会も関わり、最近は地域にある学校ということで若い先生方も必ず参加してくださるようになりました。すると、若い先生と地域の高齢者が話す機会も出来て、学校に行った時の雰囲気もずいぶん和やかになったと思います。いろんな仕掛けをしながら皆で動けることを我々が考えていった方が良いのではないかと、最終的には地域で子どもをいかに健全に育成するかにつながりますので、行動していくことが必要だと思っています。

岡田会長 地域で意識を持って活動されている方が地域の方々からきちんと理解されること、一方で地域の方が大勢で学校に入ってきたら良いという訳ではないので、こういう活動があって地域の立場で子育ての活動に取り組んでいることが、学校と関係がない方にも活動の中身も理解されていく。それがまた何かの時に力を貸して下さります。

岡田和大委員 当初、子どもに「おはよう」と声をかけると学校では知らない人と話してはいけないと言われていたが、最近は「おっちゃんありがとう」と返してくれる。地域の高齢者の方も子どもと随分会話が増えたと聞いています。その方々が地域の学校の入学式や卒業式に来てくださり、子どもたちと親しく話している。日常、地域の子どもたちと高齢者が親しく会話できる仕掛けが必要だと思います。

岡田会長 コーディネーターさんの立場から、もっと地域の理解がどうあればと思われませんか。

上田委員 春日中学校区としてお話させていただくと、10数年前から活動はしていて、今までやっていたことに予算がついて良かったというところです。先生方が負担に感じられるのは、先生方が頑張らないといけないと思うからで、先生にはできる範囲でいいですよと言っています。大人たちが楽しめなければ子どもたちも楽しめないとの合言葉のもとでやっています。先生方は転勤があります。子どもたちにとって慣れた頃に人が変わるので、メンバーの変更がない地域の人が子どもに関わることは大切だと思います。

岡田会長 小学校長のお立場からはどうですか。

岡田修委員 アンケートの中の「負担」は具体的にどのような事をどのように述べられているのか。報告ではわかりづらく、「負担」という言葉で括って聴かせていただきました。私はその負担の中身に興味があって、それぞれの委員のみなさまがどのようなイメージをお持ちになってお話をされているのかを興味深く聞かせて頂いていました。実際、「負担」というのは、時間に制約されるとか、気持ちの上の負担あるとか、達成感が持てるか持て

ないかよっての負担、遠藤周作さんが「苦楽（くるたの）しい」という言葉を使われるように、苦しいけれど、結果的に一生懸命やって楽しかったら『負担』はないでしょう。「苦苦（くるくる）しく」で終わっていたら、「負担」になる。そのあたりはどのように思っておられるのか非常に興味があって、できればそこを私は時間をかけて聞かせていただきたいと思いました。

「仕掛け」については、私は4つの小学校を経験し、学校それぞれ異にします。周知の徹底、意識の共有化の難しさは共通しているようで、今の社会現象の一つなのでしょうか。そこに「仕掛け」が必要なことは同感です。私がやってきたことですが、学校の日常の様子を自治会、地域の方々にお伝えする必要があると考え、足を運べる時には、自治会や民生委員、各種団体の会合には顔を出させていただいたり、つたない文章ですが新聞（学校だより、校長だより）を作って配らせていただいたりして、まず学校の事をわかっていただこうとしています。また、学校運営協議会の年度当初には、校内の様子を見ていただく時間を設定したり、私から学校のビジョンや経営方針についてお話をさせていただいたりしています。「今までの佐保、これからの佐保」というテーマで、若い職員と地域の方々、長らくいる職員と簡単なシンポジウムを持って意見交換をしたりしています。しかしながら現在のところ、「こんな成果がありましたよ。」とは申し訳ないが言えませんが、しかし、「仕掛け」が大事なことについてはとてもわかります。

最後に「子どもの学びにつながっているのか。」について、「学び」というのも皆さんそれぞれのイメージがちがうのかなと私は思っていて、この地域教育を考えていく中で、「学び」とは何か、この「学び」は学校の「学び」と同じなのか。最初の自己紹介で申しましたように、「地域の学校から、地域が学校に」と地域の方にお声をかけていただいて、「の」が「が」に変わった時に「感じました」と申しました。では地域が学校になったら良いのか。そうではないと私は思っています。『学び』というものをもう少し考える。例えば、学校でやっている事が民俗学者である柳田國男が言う非凡教育と表現できれば、地域の教育は平凡教育だと言えます。両方にスタンスを置くことも考えられます。地域教育で進める教育はどのようなものなのでしょう。「学び」についてももう少し知りたいと思ったのが今日の感想です。

岡田会長 時間もありませんが、公民館の立場からどうぞ。

佐野委員 地域の方々に理解を深めるために、関心のない方々に知っていただくためには、いろんな方々が集まる自治会とか、公民館、商店街など、学校とは違う立場の方がいかにそれを伝えていくのかが鍵になるのかなと思いつながら聞かせていただきました。見える形のお便り的なものをいろんなところに置くとか、回覧を回すとか、口コミのような伝え方をするとか、その役割は公民館の職員や自治会の役員だったり、また違うチャンネルを持っていくと知っていただけるようになるのではと思いました。

岡田会長 地域の理解というのは、学校を中心に活動していく中でそこから地域に広げていくのはなかなか難しいです。FMで放送してもらおうとか、教育委員会事務局外のいろんな事業の中でも地域活動のことは消防や防災でもあるわけですから、そこを通じて地域で子育てをしていくことは市全体として訴えて行かないと学校発信だけでは広がりはないかなと思いますし、自治会の力もお借りしたところです。評価については、評価会議の

方に投げてみたいと思います。

岡田会長 今日第一回ということで、皆様のご意見を聞かせていただきました。次回には今日いただいたご意見をもう少し課題として整理して、議論が深められる方法で進めたいと思います。ありがとうございました。

6 その他

事務局 次回の委員会につきましては、12月中旬ごろを予定しています。

○ 閉会

- ※ 資料
- ① 平成26年度 奈良市の地域教育を考える委員会委員名簿
 - ② 平成26年度 奈良市地域教育推進事業について
 - ③ 平成26年度 地域で決める学校予算事業 概要版
 - ④ 平成26年度 地域で決める学校予算事業 事業内容一覧
 - ⑤ 平成25年度 放課後子ども教室推進事業 活動実績
 - ⑥ 平成26年度 放課後子ども教室推進事業 活動計画
 - ⑦ 平成25年度 奈良市地域教育推進事業に関するアンケート調査の結果
 - ⑧ 平成26年度 研修一覧 (実施予定)

平成 年 月 日

署名委員

署名委員
